一般社団法人
電子情報技術産業協会

Windows 11 のメリットを活用するためのポイント (Ver.5.0)

2026 年 11 月

情報・産業システム部会

PC・タブレットユーザサポート専門委員会

目次

大項目・小項目	概要	頁
1. はじめに ・本書の目的と改訂内容	本書の主旨と、Windows 11 向けに更新・改訂したこと、追加した内容について紹介します。	P.3
2. Windows 11 のバージョンアップ ・Windows 11 のバージョンとサポート期間 ・バージョンアップ方法 ・Windows Update を通じて継続的に更新されるモデル	各バージョンにはサポート期間があり、Windows Update によって継続的にバージョンアップされる仕組みであることを理解します。	P.3
3. バージョンアップに伴う留意点 ・Windows 11 のシステム要件に合致していないケース ・バージョンアップによる影響 ・前のバージョンに戻す方法	システム要件に合致していない場合のリスク、バージョンアップによって不具合が発生した場合に前のバージョンへ戻す手順を把握します。	P.8
4. Windows 11 の特長 ・Windows Update ・「累積更新プログラム」と「OS ビルド」 ・インストールメディアの作成 ・クリーンインストールの容易性	更新プログラム、OS ビルド、インストールメディアの仕組み、最新の OS 環境を再構築する方法を解説します。	P.10
5. Windows 11 のトラブルシューティング ・初期化作業の前の準備 ・「PC をリセットする」／PC 製品標準のリカバリ機能 ・ポイントインタイムリストア ・トラブルシューティングのポイント ・AI アシスタントの活用	トラブルシューティングのためのいくつかの手法、ポイントを説明します。初期化する前には、データのバックアップと設定手順の整理が重要です。AI アシスタントの活用も有効です。	P.12
6. Windows 11 で留意しておくべき技術要素 ・デバイスの暗号化 ・モダンスタンバイ ・スマートアプリコントロール ・メモリ整合性 ・セキュアブート証明書の有効期限切れ	暗号化の状態を確認して回復キーを保存しておくこと、セキュリティ設定の確認など、重要な技術要素を紹介します。	P.17
7. Windows 11 のサービスオプション ・サービスチャネル ・Windows Insider Program 参加時の注意 ・Windows 11 Pro エディションの選択	Windows 11 のサービスチャネルの考え方、Insider Preview の注意点、Pro エディション選択のポイントを説明します。	P.20
8. まとめ ・安全・快適に使うための日頃の備え	Windows 11 は新しいバージョンが継続的に提供されますが、トラブルに備えて、データをバックアップし、リカバリ後の設定・復旧手順を準備しておくことが重要です。	P.23

1. はじめに

一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のPC・タブレットユーザサポート専門委員会では、Windows PCのユーザ向けに、Windows 10から導入された「Windows as a Service(サービスとしてのWindows)」という仕組みのメリットや留意点、活用するためのポイントを正しく理解していただくために「Windows 10のメリットを活用するポイント」というドキュメントを作成し、Ver.1.1からVer.4.0まで、内容の見直しを加えながら、継続的に提供してきました。

2015/7/29にWindows 10がリリースされてから10年以上が経過し、「Windows as a Service」の仕組みも一般的になり、その用語自体もほとんど使われなくなりました。

本ドキュメントは、内容をWindows 11向けに更新するとともにタイトルを変更し、Ver.5.0として改訂したものです。

「デバイスの暗号化」「モダンスタンバイ」「Windowsセキュリティ」「セキュアブート証明書」などの留意が必要な技術要素についても盛り込んでいます。

2022年9月には「Windows 10/Windows 11 少しコアなQ&A集(Ver.1.0)」というドキュメントも提供していますので、こちらも併せて読んでいただくことで、より理解が深まると思います。
https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/files/Windows_QAV10220922L.pdf

また、2026年3月には、「一般ユーザにおけるAI活用状況調査の結果」を公開し、PCトラブルの自己解決にAIの活用が有効であるという結果も発表しました。本ドキュメントにもその内容を反映しています。
https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/files/260327.pdf

本ドキュメントは、Windows 11 26H2(2026 Update)が最新バージョンとしてリリースされている時点(2026年11月)の情報を基にして作成しています。今後のWindows 11の機能追加や仕様変更、サポート情報の更新などにより、本ドキュメントの内容や記載しているリンク先の情報が変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

2. Windows 11 のバージョンアップ

(1) Windows 11 のバージョンとサポート期間

2021/10/4にWindows 11の最初のバージョン(21H2)がリリースされて以降、現時点(2026年11月)までに6バージョンのWindows 11がリリースされています。

各バージョンにはいくつかの表記方法がありますが、本ドキュメントでは、以降それぞれのバージョンを25H2、26H2などのバージョン番号で表記します。

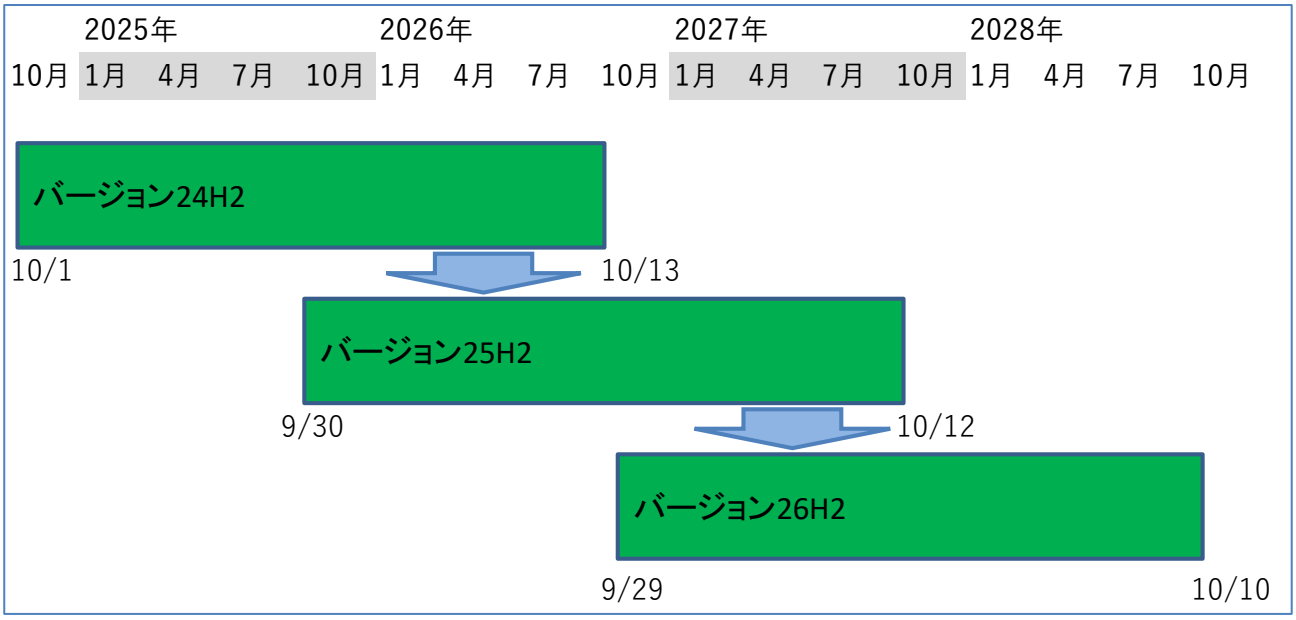
また、Windows 11にはエディションという種類があり、一般ユーザが主に使用するのは、Homeエディションまたは Proエディションになります。

Windows 11の新しいバージョンは1年に1回リリースされ、HomeとProに対するサポート期間は24カ月間です。

それぞれのバージョンに対するリリース日、サポート終了日は以下の表のとおりです。

通称	バージョン	OS ビルド	リリース日	サポート終了日
初期バージョン	21H2	22000.xxx	2021/10/4	2023/10/10
2022 Update	22H2	22621.xxx	2022/9/20	2024/10/8
2023 Update	23H2	22631.xxx	2023/10/31	2025/11/11
2024 Update	24H2	26100.xxx	2024/10/1	2026/10/13
2025 Update	25H2	26200.xxx	2025/9/30	2027/10/12
2026 Update	26H2	26300.xxx	2026/9/29	2028/10/10

新しいバージョンがリリースされると、旧バージョンのサポート終了までに、新しいバージョンへの更新が順次提供されます。下の図のようなイメージです。



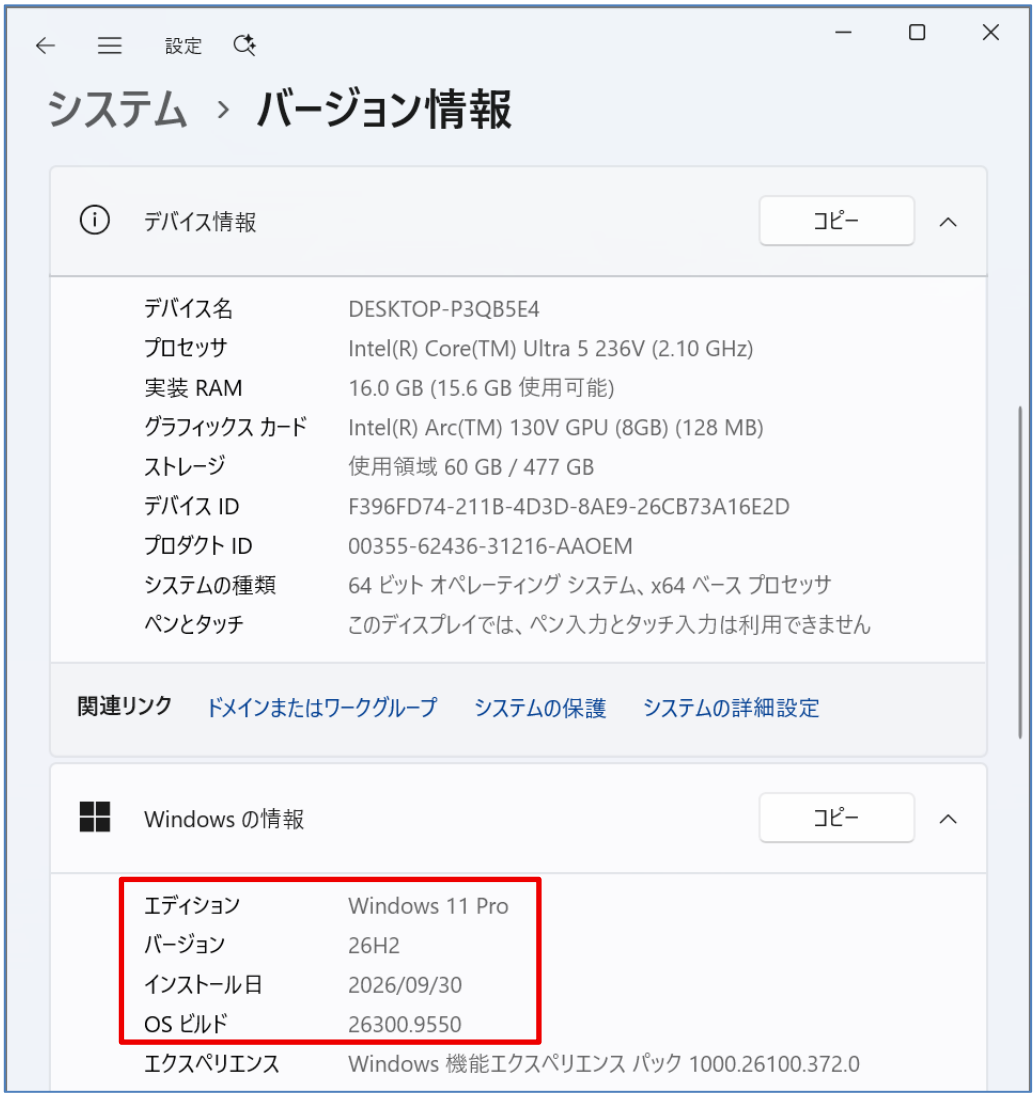
2026年11月までに、Windows 11 HomeとProの24H2以前のバージョンはすでにサポート終了しています。

【参考】Windows 11 - release information | Microsoft Learn

なお、26H1というバージョンも存在するのですが、これは特定デバイス向けのものですので、本ドキュメントでは触れません。

Windows 11のバージョンやOSビルドは「設定」→「システム」→「バージョン情報」で確認することができます。

下の画面は、Windows 11 Pro バージョン26H2の環境で「バージョン情報」を確認した例です。



【「バージョン情報」】

(2) バージョンアップ方法

Windows 11のバージョンは、Windows Updateで新しいバージョンの機能更新プログラムをダウンロード、インストールすることでバージョンアップできます。

新しいバージョンがインストール可能になると、「設定」→「Windows Update」の画面に新しいバージョンが利用可能になった旨のメッセージが表示されたり、「更新プログラムのチェック」をすることで、自動的に新しいバージョンがダウンロードされたりします。



【バージョン 26H2 が利用可能になっている画面】

また、新しいバージョンがリリースされても、すべてのユーザに対して一斉にダウンロード可能となるわけではありません。新しいバージョンがダウンロード可能となるまでに期間を要したり、何らかの条件が整わないと新しいバージョンがダウンロード可能とならなかったりする場合があります。

下の「Windows 11のダウンロード」のページで「今すぐアップデート」をしたり、「ツールを今すぐダウンロード」してアップデート用のメディアを作成したりしてアップデートすることもできます。

ただし、急いでアップデートする必要はありません。何らかの理由で、まだアップデートの準備が整っていない可能性もあるため、Windows Update でアップデートできるようになるまで待つことをおすすめします。

「Windows 11のダウンロード」のページでのメディアの作成については、4.の(3)で後述します。

【参考】Windows 11 のダウンロード



【Windows 11のダウンロード】

(3) Windows Update を通じて継続的に更新されるモデル

Windows 11のWindows Updateで提供される更新プログラムにはいくつかの種類がありますが、重要なのは次の2種類です。

ひとつが「Feature Update(FU)」や「機能更新プログラム」と言われるもので、Windows 11のバージョンを新しいバージョンに上げるための更新プログラムです。

もうひとつが「Quality Update(QU)」や「品質更新プログラム」と言われるもので、対象のバージョンに対して、バグフィックスやセキュリティ機能の更新などを目的とした更新プログラムです。

Windows 11の「サポート終了」とは、それ以降そのバージョンに対する品質更新プログラム(QU)が提供されなくなることです。

しかし、機能更新プログラム(FU)は継続して提供されるので、新しいバージョンのWindows 11へアップデートすることはできます。

古いバージョンのままでは使用できませんが、Windows Updateや、(2)で紹介した「Windows 11のダウンロード」のページで新しいバージョンにアップデートすれば、品質更新プログラムの提供は継続され、使用し続けることができます。

「Windows 11のPCを実用的に使用するためには、継続的に新しいバージョンに更新し続ける必要がある」ということです。

なお、バージョン22H2と23H2のOSビルドの前半は「22621」と「22631」で10だけ上がっており、バージョン24H2、25H2、26H2のOSビルドの前半は「26100」、「26200」、「26300」と100ずつ上がっています。

これらの間のバージョンアップは、「イネーブルメントパッケージ」と呼ばれる、通常の機能更新プログラムに比べて比較的小さい更新プログラムの適用でバージョンアップされる仕組みとなっています。OSのコアが同じなので、各バージョン間の互換性が比較的高いと言われています。

3. バージョンアップに伴う留意点

(1) Windows 11 のシステム要件に合致していないケース

Windows 11 にはシステム要件があり、インテル製 CPU の場合は第 8 世代以降の CPU が対象となるなど、比較的厳しい要件となっています。

このため、一般の Web 情報などを参考にして、システム要件を満たしていない PC に非正規の方法で Windows 11 をインストールして使用しているユーザもいるようです。

この場合、「継続的に新しいバージョンに更新し続ける」ことができなくなるケースがあります。

例えば、Windows Update でバージョン 24H2 以降の機能更新プログラムが配信されず、バージョン 23H2 のままでサポートが終了した状態になっている、というケースもあります。

今後も、予期しない不具合に遭遇する懸念もありますので、正しく Windows 11 のシステム要件を満たした PC に更新を、また、Windows 10 を使い続けている場合は、Windows 11 へのアップグレード、または要件を満たした PC への買い替えを強くおすすめします。

【参考】Windows 11 の仕様とシステム要件 | Microsoft Windows

(2) バージョンアップによる影響

Windows 11のバージョンアップによって、一部のハードウェアやデバイス、アプリケーションによっては、従来通りに動作しなくなったり、使用できなくなったりすることもあります。

また、Windows 11のバージョンアップに伴って、削除または非推奨となる機能もあります。Windows 11のバージョンアップによって仕様変更が発生する場合もありますので、そのような影響で、以前に使用できていたWindows 11の機能が使用できなくなる場合もあります。

これまでにも、Windows 11のバージョンアップによって、機能が削除されたり、メニューの場所が変更になったり、操作手順が変更になったりする場合がありました。

下記URLでは、Windows 11で削除された機能について説明されています。

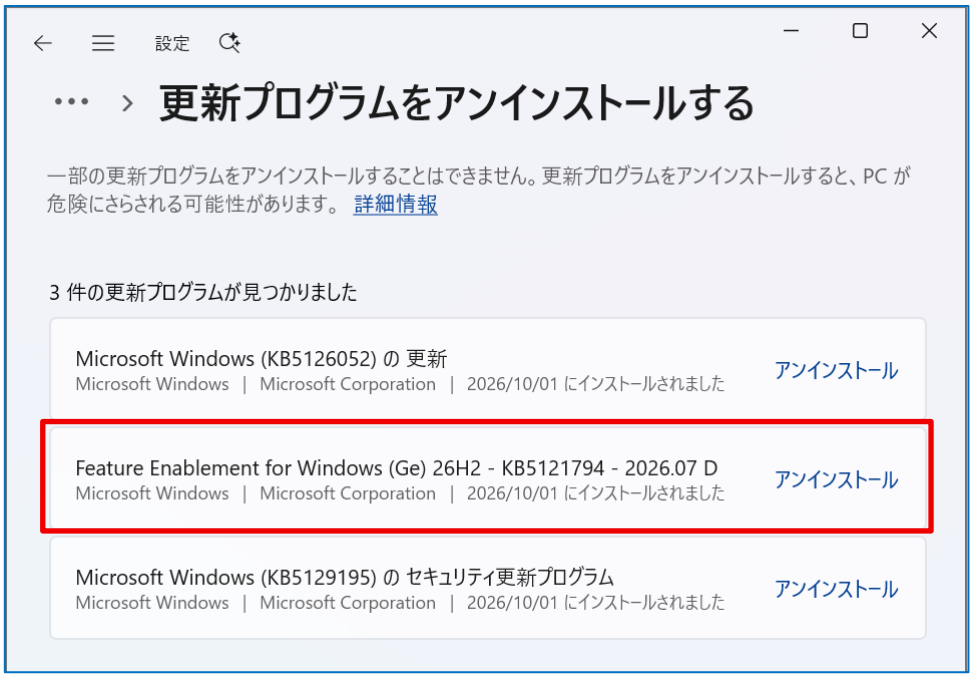
【参考】Windows クライアントで削除された機能と機能 | Microsoft Learn

(3) 前のバージョンに戻す方法

Windows 11のバージョンアップによって、使用しているアプリケーションが正しく動作しなくなることもあります。アプリケーションがWindows 11の新しいバージョンに未対応の場合です。

そのような場合、一旦前のバージョンに戻して、アプリケーションが新しいWindows 11のバージョンに対応するのを待たなければなりません。

イネーブルメントパッケージでバージョンアップした場合は、「設定」→「Windows Update」→「更新の履歴」→「更新プログラムをアンインストールする」で対象のイネーブルメントパッケージを「アンインストール」することで、前のバージョンに戻すことができます。



【「更新プログラムをアンインストールする」】

「設定」→「システム」→「回復」に「復元」というメニューがある場合は、「戻す」をクリックすることで前のバージョンに戻すことができますが、バージョンアップ後、通常は 10 日を経過すると、このメニューは使用できなくなりますので、注意してください。



【「回復」】

4. Windows 11 の特長

Windows 11の特長となる機能は数多くあります。ここでは、一般ユーザがWindows 11のOS環境を構築、メンテナンスする上で重要となる機能についてご紹介します。

(1) Windows Update

Windows 11では、Windows UpdateでOSの環境を最新にすることができます。

例えば、古いバージョンのWindows 11がプレインストールされたPCを出荷時状態にリカバリして初期セットアップした後、Windows Updateを何度か実行することにより、その時点でダウンロードされる新しい機能更新プログラムと品質更新プログラムが適用され、新しいバージョンにアップデートされます。

古いバージョンのWindows 11でWindows Updateでアップデートすると、途中のバージョンをひとつひとつ経由したりすることなく、最新に近いバージョンまでアップデートすることができます。

(2) 「累積更新プログラム」と「OSビルド」

「品質更新プログラム」の中には「累積更新プログラム」と呼ばれる更新プログラムがあります。新しい累積更新プログラムをインストールすると、「OSビルド」の後半の数字が上がります。OSビルドとは、Windows 11のバージョンの中で、より細かい世代を表現した番号です。

累積更新プログラムは、それ以前の累積更新プログラムを包含しているため、最新の累積更新プログラムを適用するだけで、最新のOSビルドにすることができます。

また逆に、OSビルドがわかれば、どこまでの累積更新プログラムが適用されているかもわかります。

下のURLなどで、Windows 11の各バージョンの累積更新プログラムとOSビルドの関連を確認することができます。

【参考】Windows 11、バージョン 26H2 の更新履歴 | Microsoft Support

Windows 11のバージョンアップによって何らかのトラブルに遭遇するケースがありますが、累積更新プログラムをインストールして、OSビルドが上がるだけでもトラブルに遭遇する場合もあります。

その場合は、対象の累積更新プログラムをアンインストールして、元のOSビルドに戻すなどの対応が必要になる場合があります。

Windows Updateで常に新しいOS環境にアップデートできる反面、自動的にOS環境が変わることによって、意図しないトラブルに遭遇する可能性もある、ということを理解しておくとよいでしょう。

なお、Windows Updateで「更新プログラムのチェック」を行うと、品質更新プログラム以外にも、セキュリティ関係の更新プログラムやドライバー更新プログラム、その他の更新プログラムなどもダウンロード、インストールされます。

また、「オプションの更新プログラム」として配信される更新プログラムもあり、これは必要に応じて選択して「ダウンロードとインストール」する形となります。



【「オプションの更新プログラム」】

(3) インストールメディアの作成

Windows 11は、2.の(2)でご紹介した「Windows 11のダウンロード」のページから、最新バージョンのインストールメディアを誰でも作成することができます。

この方法でWindows 11の最新バージョンのインストールメディア（USBフラッシュドライブやDVDなど)を作成しておけば、PCをリカバリして初期セットアップを完了した後、このインストールメディアを使用して最新バージョンにバージョンアップすることもできます。

Windows Updateで機能更新プログラムをダウンロードしなくても、最新のバージョンにバージョンアップすることができるため、バージョンアップにかかる時間を短縮できる場合があります。

その後、Windows Updateを実行すれば、最新の累積更新プログラムが適用され、最新のOSビルドにすることができます。

また、「Windows 11のダウンロード」のページで作成できるインストールメディアは、その時点の最新バージョンのみとなります。何らかの理由でひとつ前のバージョンに戻したいケースなどもあるでしょうから、新しいバージョンがリリースされる前に、現行のバージョンのインストールメディアを作成し、保管しておくことをおすすめします。

(4) クリーンインストールの容易性

前述の「Windows 11のダウンロード」ページで作成したインストールメディアを使用して、OSをクリーンインストールすることもできます。この方法は、PCをリカバリして初期セットアップをする必要がなく、さらにPCの初期設定が簡素化できる場合があります。

ただし、OSをクリーンインストールした場合は、PCメーカーのサポート対象外となる場合がありますので、必ずしもクリーンインストールすることを推奨しているものではないことをご理解ください。

また、クリーンインストールの手順についても、PCメーカーからは公開されていない場合が多いので、ユーザ自身で手順を試行したり、一般のWeb情報を検索したりするなどして、確認しておく必要があります。

Windows 11をクリーンインストールした場合、プレインストールされていたドライバーやアプリ

ケーション類はインストールされませんので、必要に応じてそれらを追加インストールしなければなりません。しかし、Windows Updateですべての更新プログラムをインストールすることにより、ほとんどのデバイスのドライバーが適用され、問題なく使用できるようになるケースも多くあります。

PCメーカーや機種によって、ドライバーやアプリケーションの入手ができるかどうかも含めて状況が異なりますので、事前に確認と準備が必要です。

また、クリーンインストールすることにより、HDD/SSDの領域が削除され、HDD/SSD内のバックアップ領域からリカバリするような機能は使用できなくなることにも注意してください。

Windows 11でバージョンアップを繰り返すことによって、不要なファイルが増えてディスク容量を圧迫したり、OS環境が不正になって、OSの起動が遅くなったり、正しく動作しなくなったりする可能性があります。

PCに関する詳しい知識があって、PCメーカーのサポートを必要としないユーザにとっては、クリーンインストールしたシンプルなOS環境を簡単に再構築できる点もWindows 11の大きな特長のひとつです。

5. Windows 11 のトラブルシューティング

次に、ソフトウェア的なトラブルシューティングに活用することを想定して、Windows 11の初期化機能などを紹介します。

Windows 11には、出荷時状態にリカバリしなくても、OS環境を初期化する機能が搭載されています。これを利用して、OS環境が不正になったことによる問題や、追加したアプリケーションの組み合せ等によって発生している問題を解消できる場合があります。

ただし、ソフトウェア的なトラブルを解消するためにOS環境を初期化するのは、最終的な手段であると考えてください。

例えば、ソフトウェア環境をトラブル発生前の条件に戻したり、インストールメディアを使用して同じバージョンのWindowsを再インストール(上書きインストール)してOS環境を正しくしたりすることで、トラブルを解消できる場合もあります。

このような一般的なトラブルシューティングを行ってもトラブルを解消できない場合など、他に手段がない場合に初期化を行うものであることを理解してください。

(1) 初期化作業の前の準備

Windows 11の初期化を実施する場合は、元の環境に戻せるように、データのバックアップを行い、セットアップやその後の設定手順を整理しておくことが重要です。

Windows 11の初期化は、意図的に実施するケースばかりでなく、やむを得ず実施しなければならなくなる場合もあります。そのようなケースに遭遇することを想定し、いつでもWindows環境の再設定ができるように準備をしておくことで、より安心してPCを使用することができるようになります。

データのバックアップについては、作成したファイルや写真・動画・音楽などのファイルのバックアップ、メールデータのバックアップ、その他アプリケーションで作成されるファイルのバックアップなどがあります。

設定手順については、Windowsの初期セットアップ時の手順、ネットワークの接続設定、Microsoftアカウントの情報、ブラウザの設定、利用している各種サービスのアカウントとパスワード、追加アプリケーションのインストールモジュールの準備と設定、プリンタドライバーのモジュールの準備と設定などがあります。

これら以外にも、ユーザによって必要となるデータや設定手順は様々なため、日頃からマニュアルのような形にまとめておくとよいでしょう。ただし、パスワード等の個人情報に関わる情報も含まれますので、セキュリティには十分な配慮をしてください。

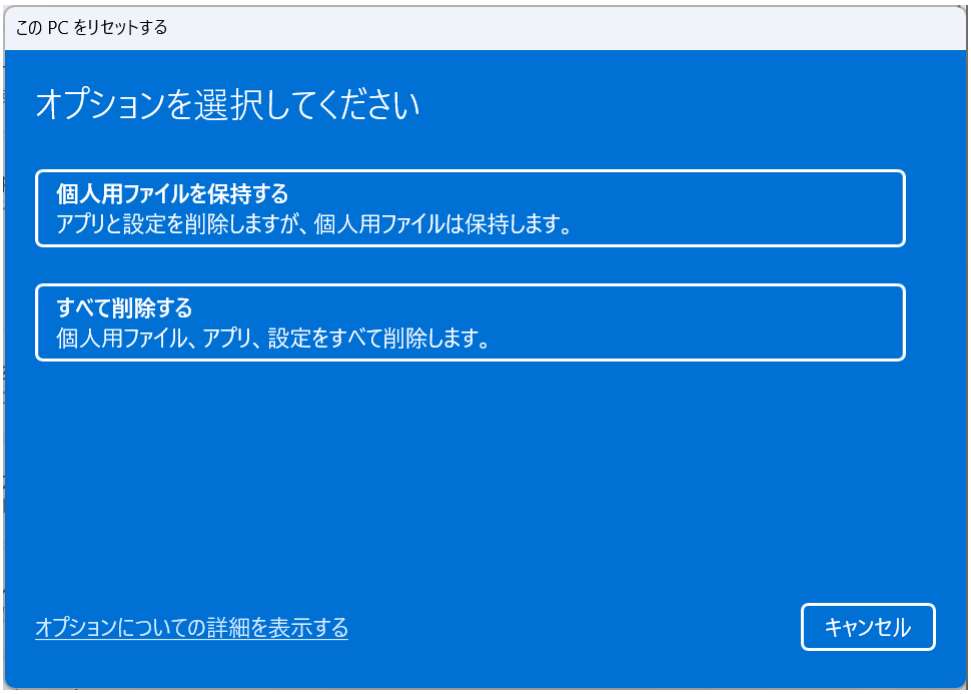
昨今は、PCの初心者に対する訪問サービスの利用など、第三者にPCの設定を依頼するケースもありますが、もし何らかの要因でその設定が無くなってしまったら、費用を支払ってまた同じ設定を依頼しなければなりませんので、ご自身でも再設定することができるよう、設定手順や設定内容を控えておきましょう。

(2) 「PC をリセットする」

「設定」→「システム」→「回復」に「PCをリセットする」という機能があります。これを実行すると、さらに「個人用ファイルを保持する」か「すべて削除する」かのどちらかのオプションを選択する画面が表示されます。



【「回復」】



【オプションの選択】

「個人用ファイルを保持する」を選んだ場合は、ユーザフォルダー下のファイルを保持したままOS環境を初期化できますが、ユーザが追加したアプリケーションなどは削除されますので、注意してください。OS環境の要因によって発生しているトラブルの場合は、解消できる可能性があります。

「すべて削除する」を選んだ場合は、ユーザが作成したファイルも含めてOS環境が初期化されOSの初期設定からやり直す形になります。後述の「PC製品標準のリカバリ機能」で説明する出荷時状態へのリカバリに近いのですが、Windows Updateで適用したバージョンアップや更新プログラムが適用された状態で初期化されますので、出荷時状態に戻るわけではありません。

例えば、Windows 10をWindows 11にアップグレードして使用している場合、PCをリセットしてもWindows 10には戻りません。

(3) PC製品標準のリカバリ機能

PC製品の機能として、HDD/SSDのリカバリ領域や、リカバリメディア等を使用して、出荷時状態にリカバリできる機種もあります。ただし、OS環境が不正になると、HDD/SSDのリカバリ領域からのリカバリも動作しなくなるケースがあるため、USBメモリなどの外部メディアにリカバリメディアを作成しておくなどの準備も大切です。

PCを購入した時にWindows 10プレインストールモデルだった場合は、この方法でリカバリするとWindows 10に戻ります。

(4) ポイントインタイムリストア

2026 年 6 月以降に追加された機能で、オンにしておくことで、設定変更等によって PC の動作に不具合が生じた場合に、正常に動作していた時の設定に戻すことができます。

復元ポイントは約 24 時間ごとに自動作成され、約 72 時間経過した場合や保存領域が不足した場合に、古いものから自動的に削除されます。手動での作成や、特定の復元ポイントの保持はできま

せん。

復元すると、復元ポイントの作成後に追加・変更したファイル、アプリケーション、設定などが失われるため、実行前に大切なデータをバックアップしてください。なお、OneDrive などのクラウドサービスや、Windows がインストールされているドライブ以外のデータは、基本的に影響を受けません。

上記(2)や(3)のような初期化作業をしなくてもトラブルを解消できる可能性がありますので、有効に活用すると良いでしょう。



【「ポイントインタイムリストア」】

【参考】Windows のポイントインタイム リストア | Microsoft Learn

(5) トラブルシューティングのポイント

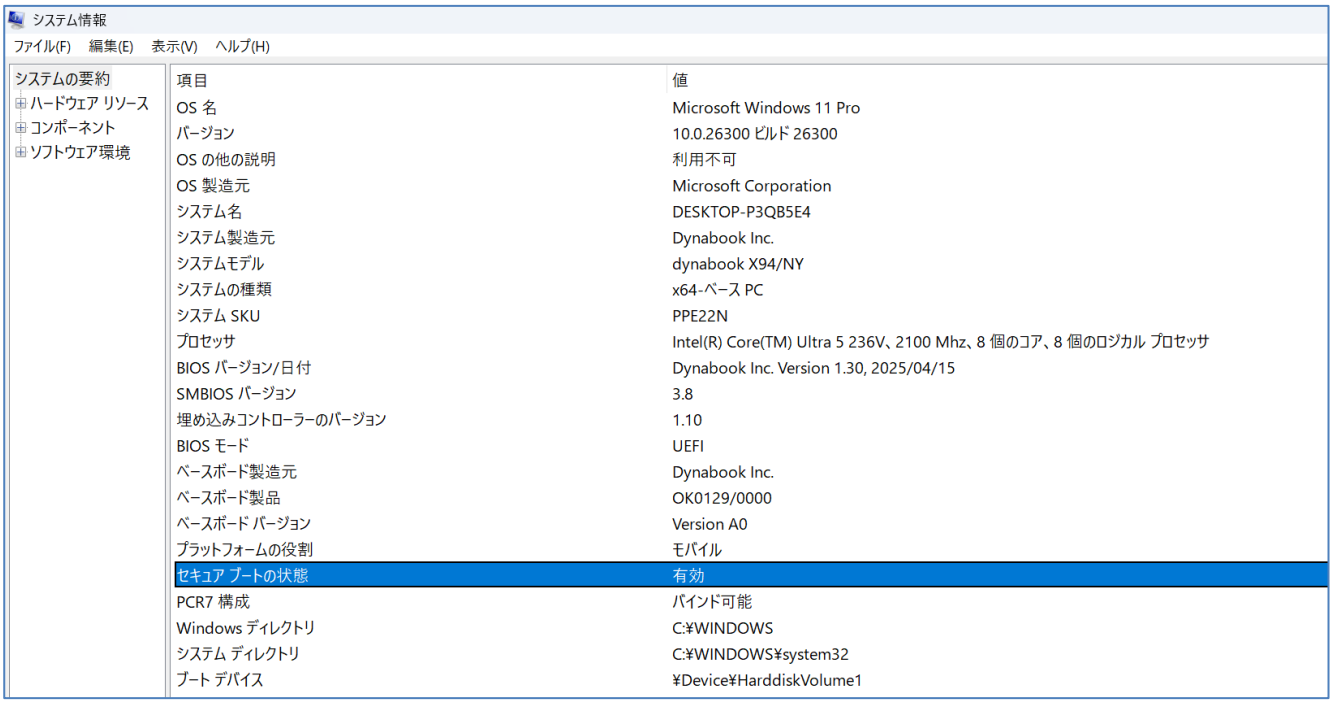
トラブルシューティングで重要となるのは、まず基本情報の確認です。PCメーカーのサポート窓口に問い合わせをしたり、Webのコミュニティや掲示板などで質問をしたりする場合、PCの機種名や型番など、ハードウェア的な情報も大切ですが、Windows 11はバージョンだけでもいくつかの種類があって、「Windows 11」だけでは特定ができないため、「バージョン」「OSビルド」「エディション」「プレインストールベースかもしくはクリーンインストールや初期化をしているか」などの情報が重要となります。

Windows 11の「バージョン」「OSビルド」「エディション」は、2.の(1)で紹介した、「設定」→「システム」→「バージョン情報」で確認することができます。

さらに、Windows 10からアップグレードしていたり、一旦バージョンアップしたものを何らかの理由で前のバージョンに戻していたり、同じバージョン26H2でも、25H2からバージョンアップしたのか、24H2やそれ以前からバージョンアップしたのかなど、OS環境だけでも膨大な条件の組み合わせが考えられます。

また、OSの条件のみでなく、「セキュアブートの状態」などのBIOS設定もトラブルの発生条件に関連する場合があります。この設定は、「Windowsツール」の下の「システム情報」を起動することによって確認することができます。

セキュアブートはOSの起動に関わるセキュリティ機能で、一般的にBIOSの設定で「有効」「無効」を切り替えることができます。通常は有効になっています。



【「システム情報」】

トラブル発生の要因を特定したい場合は、できるだけシンプルなOS環境をベースとして、それに対してどんな操作(アプリケーションの追加や設定変更など)を加えるとそのトラブルが発生するようになるかの条件を絞り込むことが重要です。

前述のクリーンインストールの手法を利用すると、トラブル発生要因の絞り込みが明確にできる場合があります。クリーンインストールしてWindows Updateを実行しただけの環境でもトラブルが発生するのであれば、OSの基本機能と対象機種の組み合せに要因がある可能性が高くなります。さらに、特定のドライバーのバージョンを変更することで発生する場合は、そのドライバーに要因がある可能性が高くなります。アプリケーションの追加によって発生する場合は、アプリケーションとの組み合せに要因がある可能性が高くなり、周辺機器を接続することで発生する場合は、周辺機器との組み合せに要因がある可能性が高くなる、などです。

ユーザ自身で、ある程度の条件の絞り込みができれば、トラブル解決への過程はかなり短縮でき

ます。ユーザが追加した複数のアプリケーションの組み合せで発生するトラブルなど、PCメーカーやアプリケーションベンダーのサポートを受けられない場合もありますので、このような観点からもWindows 11の初期化機能やリカバリ手順などを把握しておくことは非常に重要です。

(6) AIアシスタントの活用

Windows 11 には、標準機能として「Copilot」と呼ばれる AI アシスタントが搭載されています。

この機能は、日常的な問い合わせ対応だけでなく、PC のトラブルシューティングにも有効に活用できます。

たとえば、エラーメッセージが表示されるようなトラブルの場合は、Copilot に対してエラーメッセージを入力し、想定される原因や関連情報を問い合わせることで、必要な情報を効率的に入手できます。トラブルの切り分け方法を提案してくれたり、解決策が掲載された Web ページの情報を教えてくれたりするので、トラブル解決までの時間短縮が期待できます。

ただし、Copilot に限らず、AI アシスタントは「ハルシネーション」と呼ばれる、もっともらしい誤情報を回答する場合があります。AI アシスタントの回答をそのまま信頼するのではなく、出典を確認するなど、最終的な判断は人間が行うことが重要です。

6. Windows 11 で留意しておくべき技術要素

Windows 11 には、セキュリティ機能や省電力機能など、さまざまな技術要素が組み込まれています。ここでは、ユーザが意識しなくても PC を守ってくれる一方で、動作に影響することがあるため知っておきたい技術要素についてご紹介します。

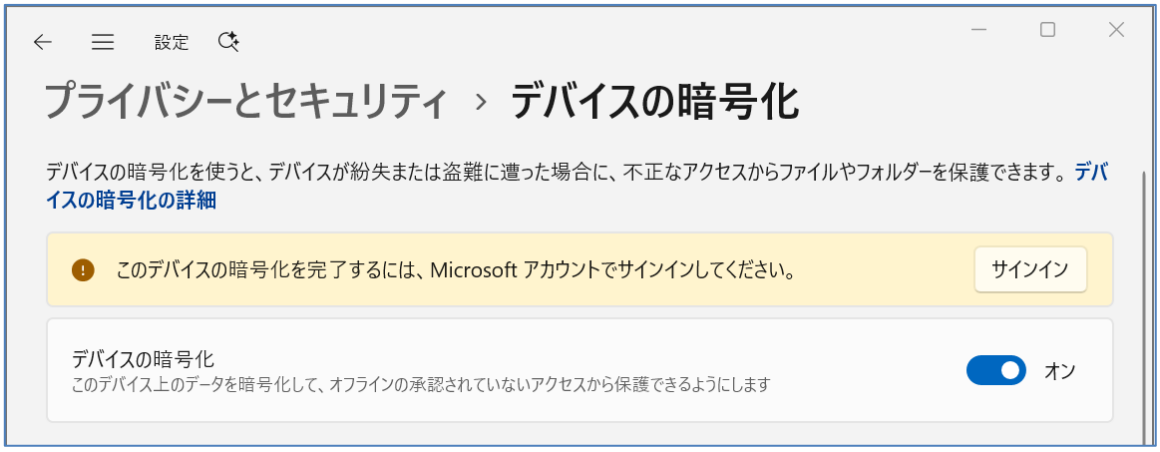
(1) デバイスの暗号化

Windows 11 24H2 以降は PC の機種に関わらず、Windows 11 のシステム要件を満たしていて、セキュアブートが有効であれば「デバイスの暗号化」の機能が利用できるようになっています。

デバイスの暗号化に対応していなかった PC で、Windows 11 を 23H2 以前から 24H2 以降にバージョンアップした場合は、デバイスの暗号化は「オフ」になりますが、Windows 11 24H2 以降がプレインストールされた PC や、Windows 11 24H2 以降をクリーンインストールした場合、「PC のリセット」を行った場合は、機種によらずデバイスの暗号化は「オン」になります。

この状態で、PC の修理、BIOS の設定変更、TPM のクリアなどを行った場合に、PC の起動時に「BitLocker 回復」の青い画面が表示され、「回復キー」を入力しないと Windows が起動しなくなる場合があります。また、これ以外にも、Windows の不具合によってこの画面が表示される場合もあります。

必ず、「設定」→「プライバシーとセキュリティ」→「デバイスの暗号化」で、自分の PC のデバイスの暗号化の設定がどうなっているかを確認し、オンになっている場合は回復キーをバックアップしておくことが大変重要です。



【「デバイスの暗号化」】

(2) モダンスタンバイ

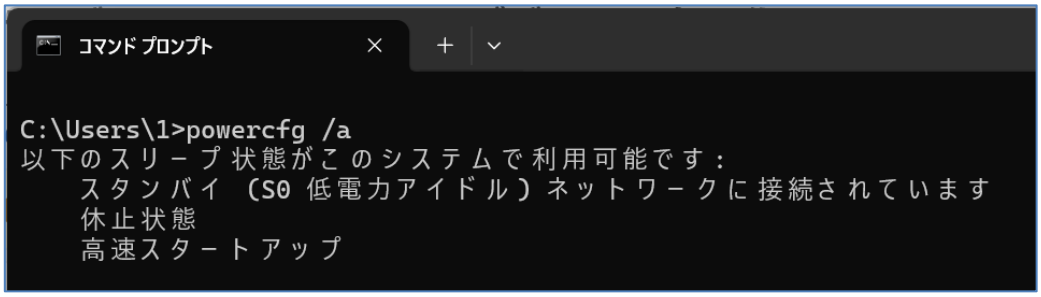
Windows 11 の多くの PC は「モダンスタンバイ」に対応しています。

従来のスリープとは異なり、低消費電力状態のままネットワーク接続を維持するなど、スマートフォンに近い動作を行います。

一方で、モダンスタンバイ中にバッテリーの消費が増えたり、モダンスタンバイからの復帰後にデバイスを正しく認識しなくなったりするケースもあります。

トラブルに遭遇した時には、モダンスタンバイの動作が関係していないか確認することも重要です。

「コマンドプロンプト」で「powercfg /a」というコマンドを実行し、「以下のスリープ状態がこのシステムで利用可能です:」の下に、「スタンバイ(S0)低電力アイドル」と表示される場合はモダンスタンバイ対応機種で、「スタンバイ(S3)」と表示される場合はモダンスタンバイ非対応機種であることがわかります。



【「powercfg /a」の実行例】

(3) スマートアプリコントロール

「Windows セキュリティ」の「アプリとブラウザーコントロール」の中に「スマートアプリコントロール」という機能があります。これは、悪意のあるアプリや信頼性が確認できないアプリの実行を事前にブロックし、ウイルスなどの被害から PC を守るための機能です。

初期状態では「評価」モードで動作し、PC の利用状況に応じて自動的に「オン」になる場合があります。安全性を高める一方で、従来の PC で使用していた古いアプリや、配布元が確認できないアプリの実行やインストールがブロックされる場合があります。そのような場合は、この機能が関連

している可能性があります。アプリの提供元が最新版を公開していないか、まず確認するとよいでしょう。



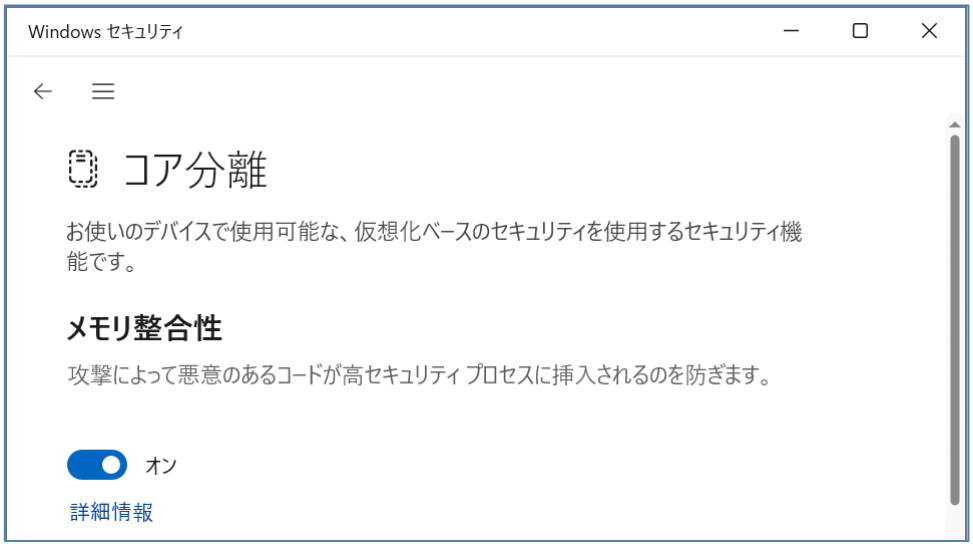
【「スマートアプリコントロール」】

(4) メモリ整合性

「Windows セキュリティ」の「デバイスセキュリティ」の「コア分離」の中に「メモリ整合性」という機能があります。これは、仮想化技術を利用して OS の中核部分を保護し、悪意あるコードがシステムに侵入するのを防ぐセキュリティ機能です。Windows 11 ではより安全に PC を利用できるよう、多くの PC で初期状態から「オン」になっています。

一方で、この機能に対応していない古いドライバーはインストールできないため、古いアプリケーションや周辺機器が使用できなくなることがあります。その場合は、周辺機器メーカーやアプリケーションベンダーから、Windows 11 に対応した最新のドライバーやアプリが提供されていないか確認してください。

(3)の「スマートアプリコントロール」も同様ですが、これらはユーザが設定しなくても標準で PC を保護するための機能です。ただしその分、従来の PC と動作が異なる場合に原因として気づきにくい傾向があります。他にも「Windows セキュリティ」の設定の違いで動作が異なることがありますので、トラブルシューティングの確認ポイントとして押さえておくと良いでしょう。なお、これらの機能をオフにすると PC の安全性が低下しますので、オフにする場合はその影響を十分に理解した上で行ってください。



【「メモリ整合性」】

(5) セキュアブート証明書の有効期限切れ

セキュアブートは、OS起動時に不正なコードが読み込まれないようにする仕組みですが、2026年6月以降、「Microsoft Corporation KEK CA 2011」などの古い証明書が有効期限切れになっています。証明書が有効期限切れになっても、すぐにPCが起動しなくなったりすることはありませんが、セキュリティ等の面から、「Microsoft Corporation KEK 2K CA 2023」などの新しい証明書に更新しておく必要があります。

Windows Update で自動的に新しい証明書がインストールされますので、一般ユーザは Windows Update を実行していれば、特に注意すべきことはありません。

ただし、古い証明書が DBX と呼ばれる「失効署名データベース」に登録されると、古い証明書の時に作成したリカバリメディアなどが起動できなくなる可能性があります。その場合は、一時的にセキュアブートを無効にしてリカバリメディアで起動する、DBX に登録された情報をリセットするなどの対応が必要になる場合があります。

セキュアブート証明書と、失効署名データベースとの関連や、遭遇し得る現象はわかりにくいケースがあります。セキュアブート証明書関連の情報には留意しておくことをおすすめします。

【参考】Windows セキュア ブート証明書の有効期限と CA の更新 | Microsoft Support

7. Windows 11 のサービスオプション

本章では、一般的には企業ユーザ向けに提示されている情報が含まれており、必ずしも一般ユーザが理解しなくても良い内容も含まれています。ただし、一般ユーザにとっても、理解することによって、よりWindows 11の特長を活用できることを意図して記載するものです。

(1) サービスチャネル

Windows 11には「サービスチャネル」があり、Insider Preview (IP)/一般提供チャネル/Long-Term Servicing Channel (LTSC)という3種類のサービスチャネルがあります。

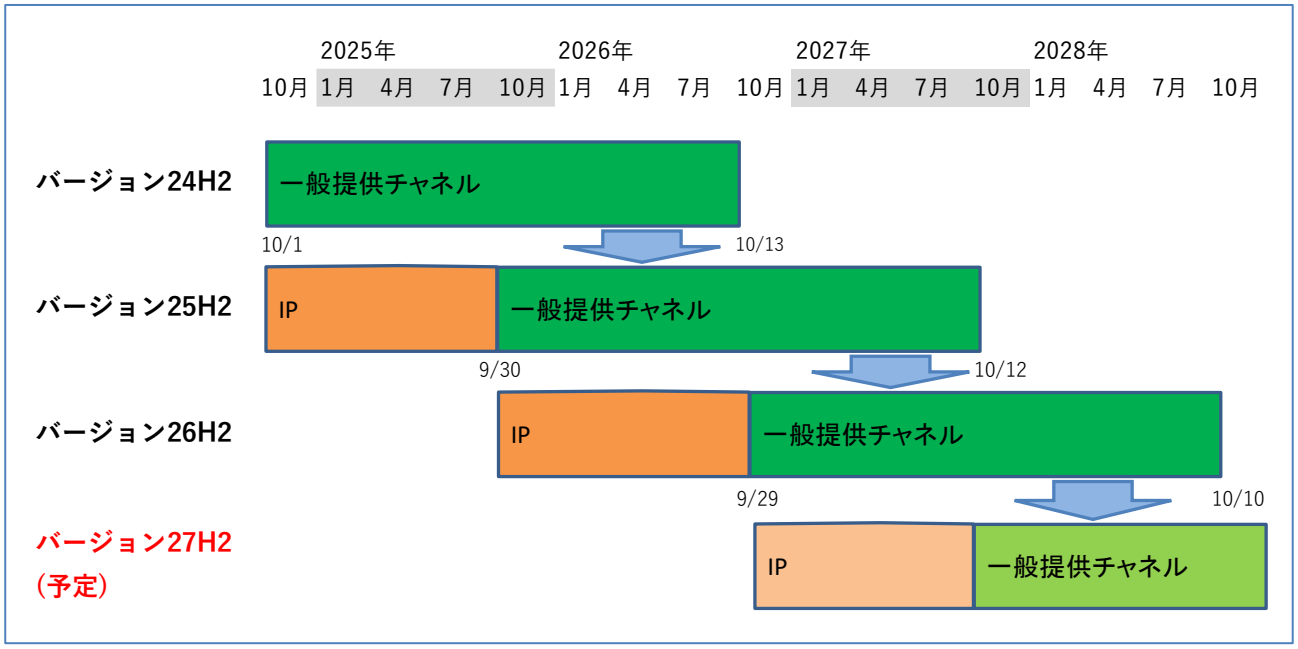
このうち、Windows 11 HomeやProを使用する一般ユーザは一般提供チャネルに該当します。

Insider Previewは正式リリース前のバージョンを試用することです。正式なOSとは異なるものですので、後述します。

また、LTSCは一般ユーザには関係しないものですので、ここでは説明は割愛します。

Windows 11 HomeやProについて、バージョン24H2以降の各バージョンのサポート期間とバージョンアップのイメージを表したものが、下の図です。各バージョンのサポート期間は、正式リリース後、24カ月となります。

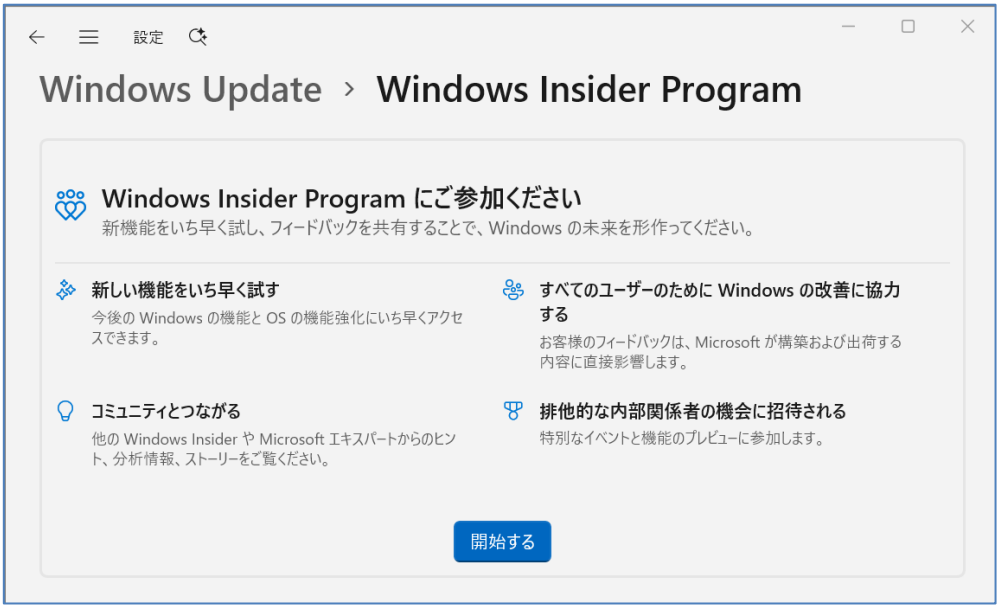
新しいバージョンがリリースされると、順次Windows Updateでバージョンアップが配信されますので、下向きの矢印のようなイメージで、バージョンアップされていきます。



【各バージョンのサポート期間とバージョンアップのイメージ】

(2) Windows Insider Program 参加時の注意

Windows Insider ProgramはMicrosoftアカウントを取得していれば、Windows 11標準の機能で、「設定」→「Windows Update」→「Windows Insider Program」で「開始する」ことによって誰でも参加することができます。



【「Windows Insider Program」】

Insider Previewとは、次期バージョン以降のWindows 11や、正式リリース前の更新プログラムを評価する仕組みのことです。次期バージョンが正式リリースされる前に、新機能の確認をしたり、アプリケーションの動作確認をしたりできるメリットがあります。

Insider Preview自体は、正式リリース前のOSの機能をユーザが試用して、その問題点や提案をMicrosoft社にフィードバックすることにより、より良いOSの開発に結び付けることを目的とした仕組みで、有用なものではありますが、Insider Previewがどんな位置付けのOSかを正しく理解しないまま適用してしまい、予期しないトラブルが発生し、PCのリカバリからやり直さなければならなくなるケースもあるようです。

また、プレインストールされたOSを変更しているので、一般にPCメーカーのサポート対象外となります。

Insider Previewはあくまでも評価用のOSですので、メインで使用しているPCには適用すべきではありません。

Windows Insider Programに参加する際に、利用規約を確認することができますが、そこには、「クラッシュやデータの損失が発生する場合がある」ことや「頻繁にデータをバックアップする」などの記載があります。

つまり、Insider Previewは、何度インストールし直しても問題ないPCに、それができるノウハウを持っているユーザが試用するためのOSであることを改めて理解してください。

(3) Windows 11 Pro エディションの選択

一般ユーザが入手できるWindows 11のエディションは、主にHomeかProになります。

Windows 11 Proには、新しいバージョンのWindows 11がリリースされた際に、機能更新プログラム(バージョンアップ)の適用を最大365日間延期できる機能があり、これはHomeエディションには搭載されていません。

ただし、近年は「意図しないタイミングでWindows 11がバージョンアップされてトラブルに遭遇した」というケースは減少しているようですので、一般ユーザがProエディションを選択する必要性

は以前ほど高くないと考えられます。

それでも、Proエディションには、Homeエディションにはない「BitLocker」「リモートデスクトップ」「グループポリシーエディター」などの機能がありますので、これらの機能を必要とする場合は、Proエディションを選択肢として検討する価値があります。

なお、HomeエディションにもBitLockerと同様の「デバイスの暗号化」機能が搭載されていますが、BitLockerには一時的に暗号化を無効化できる「保護の中断」機能があり、暗号化したままBitLockerのチェック機能をオフにすることができます。

「デバイスの暗号化」でも暗号化をオフにすることはできますが、復号化処理が必要になり、オンに戻した時に再度暗号化処理が必要になります。また、この間で回復キーも変わりますので、再度回復キーをバックアップしておく必要があります。

8. まとめ

Windows 11は、Windows Update を通じて継続的に更新されるモデルに対応しており、新しいバージョンが継続的に提供されます。旧バージョンは順次サポートが終了していくため、ユーザは継続的に新しいバージョンへバージョンアップしていく必要があります。

また、Windows 11は、最新環境へのバージョンアップや環境の再構築、トラブルシューティングを容易に行えるよう配慮されています。これらの仕組みは、比較的PCに詳しいユーザにとって特にメリットが大きく、OSの再構築や復旧作業を柔軟に行える点が特徴です。一般のユーザにとっても、最新の状態を保ちやすく、万一のときも復旧しやすい仕組みが整っており、日頃から備えておくことで安全かつ快適に利用できます。

Windows 11のPCを出荷時状態にリカバリした後に必要となる設定手順を整理しておき、必要なデータのバックアップやリストアをいつでも実施できるよう準備しておくことが重要です。

Windows 11のバージョンアップや累積更新プログラムの適用によって、予期しないトラブルが発生したり、機能変更に戸惑ったりする場合もあると思います。本ドキュメントが、そうした場面での判断や対応の参考となり、Windows 11のメリットを理解してうまく活用していただく一助となれば幸いです。

以上

【パーソナルコンピュータ（PC）ユーザーサポート関係　ＨＰ(本ドキュメント掲載 URL)】
https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/usage/usersupport.html

改訂履歴		
2026/11/13	Ver.5.0	初期バージョン掲載

「Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。」